

1. 件名：新型転換炉原型炉ふげん及び高速増殖原型炉もんじゅの廃止措置実施状況に係る
面談

2. 日時：令和5年7月20日（木）11時00分～12時00分

3. 場所：原子力規制庁10階会議室 ※一部出席者はTV会議にて実施

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

審査グループ 研究炉等審査部門

栗崎企画調査官、上野管理官補佐、大島原子力規制専門員

文部科学省

原子力課

横井原子力研究開発調査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

敦賀廃止措置実証本部 副本部長 他 3名

新型転換炉原型炉ふげん 廃止措置部 計画管理課長

高速増殖原型炉もんじゅ 廃止措置部 計画管理課 マネージャー

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 配付資料

資料1 「ふげん」「もんじゅ」の廃止措置概要

資料2 「ふげん」廃止措置の進捗状況

資料3 「もんじゅ」廃止措置第2段階の進捗状況

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	北條青島でございます。そうしましたら、ただいまより、ふげん及びもんじゅの廃止措置計画等に係る面談の方を始めさせていただきたいと思っております。
0:00:12	あと早速ですけれども、本日、資料 3 部をご用意していただいておりますので、資料に沿って、研究機構の方からご説明の方をお願いいたします。はい。
0:00:22	敦賀廃止措置実証本部の武内と申します。
0:00:26	40 不安への廃止措置につきましては、Ⅱが総力を挙げて取り組んでいることと、ところでございますが、
0:00:38	その排出の状況については、規制庁の方にですね、定期的にご報告申し上げるということで、お時間をいただいているところでございます。今日はその一環といたしまして
0:00:53	エフエム安西筋概要ということでご説明させていただきたいと思っております。説明はジョウの方からさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。はい。東郷助教の城でございます。それではですね、資料に沿って簡単にですけれども、議案の概要をご紹介させていただきたいと思っております。
0:01:13	資料 1、1 枚めくっていただきまして 1 ページ目に目次を置かせていただいております。
0:01:19	本資料 1 を用いまして、まずは、1 ポツということで表敦賀の廃止措置の検討体制、あとは 2 ポツということで、敦賀の廃止措置の全体の工程ということでふげんともんじゅのを、
0:01:34	概略です紹介させていただいた上で、資料の 3、資料の 4、3 ポツ 4 ポツ資料 23 になりますけれども、ふげん等、もんじゅのそれぞれの廃止措置の進捗状況について個別にご説明させていただくということでよろしくお願ひいたします。
0:01:49	それで、次のページ 2 ページ目になります。1 ポツということで藤鶴が廃止措置における検討体制ということでございますけれども。
0:01:57	原子力機構はですねそれぞれ拠点ごとに部門長というのを置いています。
0:02:04	なので敦賀の廃止措置実証部門長というのが、担当理事が担当されておられますけれども、これがですね一応最高責任者というふうになっております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:14	実態といたしましては、その下に敦賀廃止措置実証本部長というものが ありまして、次長本部長が、吹き出しにもあります通り、ふげん、あとは もんじゅの方は措置計画に係るプロジェクトマネージャーとして、
0:02:28	プロジェクトの計画、実施状況を管理するという業務も担っております。
0:02:33	次長部門長本部長はですねそういう意味で、右側の方赤い点線にあり ますけれども、ふげんの廃措置計画の統括会議とはもんじゅの廃止措 置計画の統括会議、それぞれの統括会議のですね議長を務めるという ことにしております、
0:02:49	この統括会議の中で、都税プロジェクトの計画等実施状況について管 理をしていくということをしております。
0:02:58	本部長がそこで管理してる結果につきましては、部門長の方にですね、 部門会議というのがありますけれども、部門長の方に報告をして、必要 な指示をしていただくと、そういう体制を作っております。
0:03:13	で、さらに、本部長の下にですね左側の方になりますけれども本部長代 理という者がありまして、ここはふげんともんじゅの廃棄物の戦略の会 議というのを置いております。
0:03:26	こちらにつきましては、運営ともう一度それぞれの施設の解体から出て くる、解体撤去物、廃棄物になりますけれども、この廃棄物につきましては、 部門としてどのように処理処分していくかというところを検討する ということになっておりますので、
0:03:42	増えもんじゅの配給戦略会議というところで本部長代理が議長を務め て、全体を間管理していくと、そのような体制をとっております。本部長 の下には後は廃止措置の推進室長をこの下に、
0:03:55	私に言うところになりますけれども、この推進室長が、本部長の事務局 をして、それぞれの統括会議、あとは戦略会議の方を統括すると。
0:04:08	あとはそこにふげんの所長訪問所長がそれぞれ参加していくと、そのよ うな体制で進めております。
0:04:16	次のページをご覧ください。3 ページ目になります。
0:04:19	それらの方は措置の全体工程をですね極めて簡単になりますけれど も、併せて記載させていただいております。上がふげん、下がもんじゅを 記載しております、ふげんの方はですね、08 年から廃措置が開始して おります、
0:04:35	一応今、計画では 2040 年までに建屋の解体を終了するという廃措置 計画になっております。
0:04:42	上に返答幾つかポツ 3 ポツで書いてありますけれども、2018 年からは ですね、原子炉の周辺設備の解体撤去期間に入っております、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:52	原子炉周辺設備の解体撤去と、これを順次進めているというところと、
0:04:57	2030年から、原子炉本体の解体というのをやろうというふうに思っておりまして、現在この原子炉本体解体に向けた、遠隔自動化装置の開発と、
0:05:07	いうのを、もう施設の解体と並行してやっているというところになります。
0:05:10	併せてですね、原子炉の周辺設備の解体撤去工の方から出てきた資材、金属等になりますけれども、これらにつきまして、クリアランス制度を活用した再利用に向けた取り組みをやっていると。
0:05:23	このあたりが付言のポイントになっております。
0:05:26	一方でもんじゅの方ですけれども、もんじゅは2018年から廃措置が開始しておりまして、2047年までという計画になっております。
0:05:36	その中で、2022年度、昨年度までに、原子炉内の使用済み燃料の取り出し、燃料体取出し作業というふうに呼んでおりましたけれども、これをすべて完了して、本年度から、
0:05:48	解体準備期間というところに入っており、遮へい体等の取り出し、熱海所系統発生設備の解体撤去に着手しているという状況でございます。
0:05:58	あわせて、現在この解体準備期間に入っているわけですけれども、このナトリウムの搬出というのが、次のもんじゅにとって大きな節目になります。
0:06:08	名取の話につきましては、2028年度から31年度にかけて実施するというようにしてございまして現在その準備を進めております。
0:06:17	このコウトリの搬出が完了するタイミングを、この第2段階の解体準備期間として設定していると、そのようなことになります。それで、藤本部長がプロジェクトマネージャーとして、この両方のプロジェクトを管理しているということになりますので、
0:06:33	それぞれ円滑に進むようにですね、ふえんの廃止措置計画につきまして、計画的に履行できるよう、もんじゅからふげんの方に人的資源の投入が現在図られております。
0:06:46	あわせて、この遠隔自動化装置の開発というところを中心に、人的資源を投入してるわけですけれども、ここでやられたノウハウにつきましては、もんじゅも同じようにですね、原子力の書いてございますので、
0:07:00	もんじゅの廃止措置の方に知見技術を還元できるようにしていくと、そのような工夫をしていると、いうことになります。
0:07:06	それで、それぞれの工程につきましては、詳細または資料の2資料の3でご説明いたしますけれども、4ページ目の方は、ウエノ、施設の解体撤去工事の主要な手順の方を示しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:20	主な手順といたしましては、上に4段階書いてあります。重水系ヘリウム系統の性能除去期間、こちら周知終了しております。現在エンシェウ周辺設備の解体撤去期間に入っておりますけれども、
0:07:34	そのうち、
0:07:37	四角枠で点線で囲っておりますのが、主要な原子炉周辺設備の解体撤去工事の段取りを表しております、そのうちの一目になります、原子炉領域と接続している各設備の隔離装置というすでに完了していて、
0:07:50	現在、主要な原子炉周辺設備ということで、
0:07:54	冷却系系統施設についての解体撤去、あとは重水系ヘリウム系の解体撤去というのを進めているということになります。
0:08:03	で、先ほどご説明しました通り、さらにその右側の方に、青井伊井は、挙げかけしておりますけれども、使用領域の遠隔解体装置及び解体撤去の搬送装置、この設置をするというのがですね次の、
0:08:18	原子炉本体解体提供に移るための条件とこういうふうになりますので、この部分につきましては、まだちょっと具体的にスケジュールが全部決められてるわけではありません。
0:08:28	現在検討書を再開していかなければいけない項目というふうに考えておまして、この検討状況につきましても、都度まとまり次第ですね、またご説明をさせていただきたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。
0:08:41	そういう感じですね、ふげんのほうを解体費撤去につきましては、一番上に使用済み燃料の搬出がありますけれども、これが終わったら、
0:08:50	プールの汚染の除去工事のうち、使用済み燃料貯蔵プールの除染工事を行い、
0:08:56	あわせて、原子炉領域、生体遮へい体、解体撤去工事、また、供用終了したその他の設備の解体撤去工事。
0:09:05	それ以外の、汚染しているタンク類でありますのでそのタンクの汚染の除去工事が終われば、最後の方のタイミングとして、気体廃棄物処理系、液体廃棄物処理系、固体廃棄物処理系。
0:09:18	換気系放射線管理施設を解体をして、建屋の解体に入っていくと、そういう段取りになっております。
0:09:24	それで、5ページの方を見ていただきまして、もんじゅの方になります。
0:09:29	工事の方も、同じような考え方にしております。本庄はですね、施設の解体結局始まるのが第二段階からになりますので、ここで書いてるの第二段階以降の工事の手順を記載しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:42	第二段階の中で現在、赤枠で記載しております、遮へい体等取り出し作業等を水を系統発電設備の解体撤去をこれを行っているということになります。
0:09:52	これが終わりますと、次第3段階に移っていくためには、青井網掛けしであるところを今後ロードマップを詳細化する項目というふうにしておりますけれども。
0:10:03	まずは、放射性ナトリウム設備の解体技術基盤整備、と呼んでおりますけどこれが必要だというふうに思っておりますし。
0:10:11	加えまして、原子炉容器等をにつきましては一応特殊設備というふうに位置付けさせていただいております。
0:10:18	特殊設備の解体技術基盤の整備をしていくということを考えております。それぞれの技術基盤の整備が終わればですね、右側の矢印がありますように、放射性名取三木の解体提供ということで、一次主冷却系。
0:10:31	ローエンド貯蔵槽の解体に着手したり、特殊設備ということで原子炉容器や、コールドトラップと、こういう設備を解体撤去に着手していくと、そういう段取りになっております。
0:10:42	あわせてですね下の方に行きますけれども、まずは非放射性ナトリウム設備の解体技術の基盤整備というのが、先行してやらなければいけないというふうに思っております、これと、
0:10:54	またその右側にありますけれども、非放射性的バルクナトリウムの抜き出し搬出作業、これが終われば、非放射性的名取付近の解体撤去工事に入っていくということを考えておまして、こちらにつきましては、第二段階の終盤にですね着手できるように進めていると。
0:11:10	いうところでございます。これは二次系関係の解体撤去していくと、そういう流れになっておりますんで。
0:11:18	併せてですね。
0:11:20	今、汚染の分布に関する評価も実施しているところでありますけれども、放射性廃棄物の処理、他に関する計画を作って、それに基づいて廃棄体化処理設備の整備をしていくと。
0:11:33	それであればですね、解体撤去物につきましては廃棄体化していくことができるようになりますので、そのような工事を経て、すべての改定提供が終われば、同じようにですね、建物の汚染の除去工事。
0:11:48	各建屋の解体というふうに進んでいくと、これが大まかな考え方というふうになっております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:54	では続きまして途中詳細になっていきますけれども、資料2の方で、ふげんの廃止措置の進捗状況について簡単に紹介をさせていただきます。
0:12:04	1ページの方はですね解体撤去の進め方で、4段階あるとこういうものを示しております、先ほども繰り返になります通り現在②番という、解体撤去期間というところに入っております。
0:12:16	2ページが、タービン建屋における解体撤去の実績を示しておりますけれども、ここで示しております、緑色になってるところにつきましては、2020年度までにすべて解体が終わったということになります。
0:12:29	次のページを見ていただくと、さらにもう少し詳細を記載しておりますけれども。
0:12:35	解体撤去の、この原子炉建屋内の解体撤去の実績の方になります、2018年度にはですね、地下階の機器の配管の解体を行い、10、2019年度から、
0:12:47	20年度には、ループ側、20年度から22年度にかけてBループ側の解体撤去がすべて完了したということになっております。
0:12:56	で、2020年度の途中からですね、原子炉建屋の中の大型機器の解体撤去をやっていくということになりまして、それぞれ物量がですね、下に記載した通りの物流になってると、こういうことでございます。
0:13:09	で、4ページになりますけれども、ふげんを書いて撤去する上での特徴の一つになります、廃棄物の搬送ルート of 整備というものがございまして、通常ですね廃棄物搬出をするときには原子炉建屋の中の1回外に出さないですね。
0:13:24	要するに乗ってこないということになっています。
0:13:28	タービン建屋は一で処理保管するというふうに考えておりますけれどもこれをですね、相当出さずに、業務の効率化等も考えまして、原子炉建屋の中にですね開口を開けております。
0:13:41	右側の方の辺にありますけれども、開校ルートを設けさせていただきます、この開口下に写真も記載していますこのような開口を設けてですね、ここを通して、
0:13:52	タービン建屋の方に解体撤去物をどんどん持ってくると、タービン建屋の地下階のところですね、他、処理すると、そのようなことをしております。
0:14:03	次のページからはですねそれぞれのループ抜き解体の実績が5ページ、6ページがビール側の機器解体の実績ということでちょっと写真集

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	的にちょっと出させていただいております。ちょっと説明は割愛させていただきます。
0:14:17	7ページからですね現在実施しております、原子炉本体解体に向けて技術の開発ということになっておりまして、
0:14:24	ちょっと繰り返しになりますけれども、2030年度から、実施する原子炉本体を安全かつ確実に解体するというために、実機解体前にモックアップ試験をするということにしておりまして、
0:14:36	こちらは原子力機構の木崎にあります、スマートデコミフィリング実証拠点というのもございますので、そこで館内挿入水中レーザーアセッサーHead制で製作し、そのモックアップ試験をやっていると、こういうことでございます。
0:14:52	あわせて、8ページ目の方になりますけれども、解体用プールの溶接、あとは検査を円滑遠隔かつ自動で行うための技術開発ということで、
0:15:02	左側の方にポンチ絵書かさせていただきますけれども、この中でちょっとわかりにくいですが、原子炉容器の中間ぐらいのところに赤い線で溶接接続部というのがあると思います。この部分をですね、
0:15:14	遠隔で溶接をし、溶接がきちんとできているということを検査すると、こういうのをですねこれ全部遠隔、自動であるということを考えておりまして、その技術開発を今進めていると。
0:15:26	こういうところで、
0:15:28	技術開発上の課題、というのが、それと課題への対応というのを左下に整理をさせていただきます。
0:15:35	目標といたしましては、まず①番ということで、熟練工と同等レベルなるような溶接検査、まずこの遠隔自動化、これを実現するというのを課題の1点目。
0:15:47	2点目は、溶接の欠陥とか、故障設備の故障というのが発生した時に、遠隔でトラブルシューティングができるように、この遠隔技術を確立しておこうと、そのようなことを考えております。
0:16:01	あわせて、この方それぞれの課題に対する対応といたしましては、まずは、①番につきましては、要する手法検査方法の最適条件というのを抽出して設計に反映していくと。
0:16:13	いうことと、②番ということで、解体用プール等の模擬設備を用いて装置の制御性、溶接検査の性能等の検証をするということ。
0:16:23	この2点を今後の対応というふうに考えておりまして、
0:16:27	右側の方に行きますけれども、全体のスケジュールについては、この開発のスケジュールを4段階でやっていくというふうにしておりまして、第

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	一段階、第二段階第3段階第4段階で第一段階がですね、要素開発と、詳細設計をします。
0:16:43	第二段階で装置を製作して単体試験をして、だんだん第3段階で藪茂木伊井をしてみようかなと。その結果を受けて必要な装置改良をした上で、
0:16:53	代表段階で、総合模擬試験をすると、そのような段取りで考えております。
0:16:58	この第一段階から第3段階を5年間かけて開発をして、研修評価を2年かけてやると、合計7年間かけてやるというのが現在の計画になっております。現在この装置の設計をやっているところと、
0:17:12	いうふうになります。
0:17:13	で、その下にありますがけれども、2029年度には、この実装を変えたい。このあたりがですね、ある程度できるようになるというのを目標にしておりまして、
0:17:24	2022年8月8日には、廃止措置工程の見直しをさせていただいたところですがけれども、22年度のうちにですね、知見あるメーカーと協働した技術開発ポイントの洗い出しの整理というのを先ほど左側の、
0:17:39	説明した通りやりまして、技術開発の方向性のを取りまとめております。現在、この第一段階に移行するということで、この契約手続きをしていて、間もなくですね、契約締結駅で前に進めるんじゃないかというふうに思っていると。
0:17:53	それが現在の状態ということになります。
0:17:56	9ページの方は、もう一つやってるというふうに言ってたふげんのクリアランスの件でございます。
0:18:02	プラスの制度の方につきましては詳細ご説明いたしませんけれども、右下に皮膚へのクリアランス実績が記載させていただいております。合計526トンをすでにクリアランス。
0:18:14	そうしたと、こういうことになっております。
0:18:17	次のページにつきましてはクリアランス金属の再利用の実績というのを記載させていただいております。
0:18:24	こちらはですね金属されるように係る理解促進というのを目的といたしまして、ふげんのクリアランス金属再より再利用車製作物をですね、福井県内の各所に設置提示するということをやらせていただいております。
0:18:37	左側の方はですね実際のふげんのクリアランス金属でございます、例えば右側の方に確保したのは、車両同盟を作って、それはですね福井

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	県の高齢なコスト計画というのをございますけれども、この計画の中で、ウエノクリアランス金属を加工して、車止めを製作したり、
0:18:55	下の方になりますけれども、こちら国プロになりますけれども、照明等、またサイクルスタンドというのを作りまして、それをですねそれぞれ下に書いてるような、鶴工業高校とか、
0:19:09	あと一緒に作って設置したと。そのようなことをやっているということでございます。
0:19:14	11 ページはですね今年度の主な解体撤去作業ということになります。
0:19:19	26 年度までかけてやろうと思っております。原子炉建屋内の大型機器の解体ということで、上記ドラムと再循環ポンプ、これにですね、着手していこうというふうに思っておりますし。
0:19:32	それ以外に、右側にありますけれども、まだ補助、補助建屋内機器、ございます。燃料サービスタンク封筒等、これアスファルト固化装置の解体撤去ということでございまして、
0:19:44	この附帯撤去が終わったところに、セメント固化装置を設置していくと、そのようなことを考えております。
0:19:51	で、12 ページは今年度の主な変更方法認可申請の予定ということで、今月、7 月にはですね、原子炉設置変更許可申請をさせていただきたいというふうに考えております。
0:20:04	こちら趣旨は、使用済み燃料の再修理により回収されるプルトニウムの件でございまして、平和利用のみに供することを前提に、フランス魚のリサイクル者に対するというふうにはしております。
0:20:16	これをですね設置許可の方に反映すると、こういうことを考えております。あとは、一応目標としましては、今年度末頃になると思えます。廃措置計画の変更認可申請、こちら合わせて保安規定の変更認可申請もやらせていただきたいというふう
0:20:31	に思いますけれども。
0:20:32	及び電源装置の導入というのを考えてございましてこれをやっていきたいというふうに考えております。
0:20:37	あとは、補足になりますけれども、13 ページ、予備電源装置の導入と、こういうものがどういうことかということで、こちらですね、
0:20:49	①番に燃料貯蔵プールの除熱機の停止と、こちらについてはもう 19 年の 7 月に終わっております。
0:20:56	②番の原子炉機器冷却系の変更を 3 番、所内電源設備の見直し、こちらですね、廃措置計画の方は、随分大体やらせていただきましたけれども、この供用中のディーゼル発電機を、大型の予備電源設備。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:12	切り替えるというのをやっていきたいなというふうに思っておりまして、その辺りを今年度中には、林家していただきたいなというふうに思っております。
0:21:20	14 ページは、ふげんの使用済み燃料の搬出計画の検討状況でございます。こちらにつきましては、搬出開始時期を、令和 5 年度を完了時期を令和 8 年夏ごろまでというふうにして、
0:21:34	フランスといろいろ準備をしてきておりましたけれども、フランスの方からですね調達した材料の特性を確認すると、ちょっと構成部品の一部の寸法の変更が必要だという方側に、
0:21:47	これについて協議を重ねてきていて、現在ですね、この赤い点線記載しておりますけれども、使用済み燃料の搬出計画については、見直し中というふうにさせていただいております、
0:21:58	年内中に、この取りまとめしたいというふうを考えておりますので、この辺りもですね、また、取りまとめができましたら、ご説明したいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。
0:22:09	以降、ちょっと参考資料ということで、FAの概要、歩み、業務管理体制、現在のプラント状態、まとめ、現在のプラント状態につきましてはほとんどがふげんもを止めることができます 19 ページにありますけれども。
0:22:23	色がついてるところが、実際に動いているところということになります。
0:22:28	閉会退席法人致死範囲というのが 20 ページにあります、こちらについても、赤く書いているところは、すでに解体が完了した施設、青色のところは、
0:22:41	供用が終了している節ということになりますのでこの辺りについて、これからやっていくということになりますし、
0:22:47	21 ページの方につきましては、原子炉構造材からの試料採取をしたと、こういう話を記載させていただいております、
0:22:55	22 ページはふげんの実際の放射性のレベル区分は、プラント内でどうなっているかというのを記載させていただいております。
0:23:03	ちょっと議論の内容については、以上でございます。
0:23:06	すいませんじゃちょっと続きまして、資料 3 の方ですね、もんじゅの進捗状況の方についても、簡単に紹介をさせていただきます。
0:23:14	当時の方ですね、第二段階の廃止措置工程ということで、
0:23:18	今、その主、下半分ですね、2023 年 2 月昨年 2 月にですね認可いただきました内容といたしましては、ナトリウム機器の解体準備という一環で、遮へい体の取出し作業と、
0:23:32	こういうことを今やらせていただいております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:35	あわせて逸見所系統発電設備の解体撤去等、汚染の分布に関する評価をするということになります。
0:23:42	このうち、27年度以降をですね、第二段階の後半というふうに呼んでおりますけれども、この後半の部分につきましては、まだ廃措置計画の方に明確に記載することができておりません。この部分につきましても、
0:23:57	まとめ次第ですね反映させていただきたいというふうに思っております。先ほどご説明した通り、名取付近の解体準備のうち、一番上にあります名取の搬出につきましては28年から31年ということになりますけれども。
0:24:11	こういう部分もまだちょっと具体的な計画は、反映できておりませんので、またまとめましてご説明したいというふうに考えております。
0:24:18	で、2ページ目以降はですね、現在の状況ということになります。
0:24:23	まず、実施内容をですけども、遮へい体の取出しという作業につきましては、これは原子炉容器の解体作業が容易になるようにするという目的でやっております。
0:24:33	なので、原子炉の中に、遮へい体、あとは燃料取出しをするときにですね代わりに挿入した模擬燃料体というものがありまして、原子炉容器の中に合計595体。
0:24:45	狼狽燃料貯蔵槽にさらに4体ありますので、トータルで599体をですね。
0:24:51	燃料体取出し作業で実績があります。燃料交換設備費等を用いまして、同じ手順で燃料域に搬送するという作業を4年間かけてやろうというふうに思っております。
0:25:01	なので、この4年間終わればですね一番右にあるような感じで、原子力の仲間から本になるというそんな状態にしていきたいというふうに思っています。
0:25:10	これ終わったら、ナトリウムを抜き出しに着手していくと、そういう予定にしております。名取舟橋につきましては、目的は保有するナトリウムを保有するリスクというのを低減しようということになります。
0:25:24	現在はですね、ほとんどナトリウムはすでにもう降下されておまして、かなりリスクレベルが下がってるというふうに思っておりますけれども、この遮へい体取り出し作業をしておりますので、その関係で、
0:25:35	原子炉容器、あとは炉外燃料貯蔵槽の中に行きたいなというのがまだ残っております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:41	この部分につきましては、廃止措置を進めるために遮へい体取り出し作業が終わった、2028年度から、ナトリウムをここに搬出するという計画にしております。
0:25:52	この施設内の既設タンクから、今後整備する輸送用タンクにナトリウムを作っ移し替えるルートを設備、作業手順等については現在も検討中というふうになりまして、
0:26:04	着手までに改めて廃措置計画の変更認可申請を行いたいというふうに考えております。
0:26:09	3ページ目は、残りの作業になりますけれども、
0:26:13	三宅藤発電設備の解体撤去、こちらにつきましては、大型の非放射性どな取引こちらにつきまして、解体撤去後の細かく解体処理をしていくと、こういう作業が必要になります。
0:26:28	ふげんも同じように古いタービン建物でやっておりますけれども、門司のタービン建物これ非管理区域になりますので、費用出水名取付近の解体撤去方法の解体場所はここにしようというふうに考えておりまして、
0:26:40	そのために、新美ジョウ系と発電設備の解体をしているということになりますので、この場所として使おうと思っている、タービン建物の三階がに設置されている。
0:26:50	発電機復水器費給水加熱器等を解体提供するという計画になっております。
0:26:55	あわせてですね、もう次の方もこの汚染分布評価というのが必要だというふうに思っておりますこれ第一段階のときからずっと継続してやっております。
0:27:05	で、こちらは、第3段階予定しております、放射性の名取三木の解体撤去に入るまでに、この浅部の評価を終えて、解体の手順の方に反映するというのが必要だというふうに思っております、
0:27:19	第一段階の中でですね、一次主冷却系の機器配管等について放射能の測定というのが右側の写真にもありますけどやりました。その結果といたしましては、
0:27:30	放射線量がですね、かなり低いということを確認しております。携帯段階は、あとは残りの原子炉容器もあり、についてやろうというふうに思っております、
0:27:41	実際先ほど方説明いたしました遮へい体の取出し作業をもって、取り出した遮へい体、そこからですね、いくつかサンプリングをして、汚染の分布評価に反映していくということをやっているのかなというふうに思っております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:55	現在の進捗状況になります。4 ページに全まとめさせていただきました。
0:28:00	遮へい体の取出し作業につきましては、原子炉容器から、狼狽燃料貯蔵性の取り出しというものや、やりました。今年度分の作業につきましては、7月4日にすべて完了いたしまして、累計ですね、202体の取出しをしたということになっております。
0:28:16	なので、現在炉外燃料貯蔵槽の中にはもともと4体は繋がりますので、合計206体入っているというのが現在の状況です。引き続き、炉外燃料貯蔵槽から、燃料池に移送する作業というのをやっていこうというふうに思っております、
0:28:30	燃料交換設備の後片付け、等々を今やってるということになります。これが終われば、引き続きですね、燃料池の移送作業に着手していくということになります。
0:28:40	ナトリウムの搬出の件につきましては、施設内の既設タンクから取り出せるルート等の検討をしているということでございますけれども、まずその第一段階といたしまして、
0:28:51	インスの方でナトリウムを処理するというので、その後イギリスのキャビティー者ということと、基本的な枠組み契約というのを締結しております。これが4月の28日になります。
0:29:06	この基本的な枠組み契約に基づいてですね、あとはまた段階的に、それぞれの向こうの大井リースの方で名取の処理していただく設備を作ったり、
0:29:16	そちらに名取を持っていったり、実際に処理処分してもらったりと、そういうのを段階的に契約をしてやっていくと、そういう形になります。
0:29:25	20系統の発電設備の解体撤去につきましては、7月3日から給水加熱器の解体撤去に着手したということになっております。
0:29:35	予算の分布に関する評価につきましては、現在はですね、放射化汚染の分布評価のために、元素組成分析というのの結果の反映評価をしているというふうにしておりますけれども、これはですね。
0:29:47	先ほどの減少容器の中ではなくて、それ以外のところから、基本的なもんじゅで使っている、材料を元素組成がどうなっているのかというのを、製作時の部材が残っておりましたので、そこから分析をして、
0:30:02	反映するという作業を今しております。
0:30:05	あわせて、先ほどもご説明いたしました通り、解析評価の妥当性確認というを行うために、中性子遮へい体から試料採取する、その採取方法を検討しているということでございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:18	あとは二次的な汚染本部評価というのにも必要になりますけれども、こちらにつきましては、昨年度にですね、さらに細かく、ガンマ線スペクトル測定というのをやりましたので、その結果を踏まえて、
0:30:32	各種の特定放出を濃度を評価しているというのが現在の状態ということになります。広報ちょっと参考ということになりますけれども、大藤委員と同じようにもんじゅの概要、
0:30:43	経緯、業務管理体制、現在のプラント状態というのを記載させておまして、10 ページに現在のプラント状態ございますけれども、
0:30:52	口頭では紹介させていただきましたが、液体のナトリウムがありますのは、その中で赤く記載しております原子炉、炉外燃料貯蔵槽のみということになります。
0:31:03	清掃他の系統に入っておりましたナトリウムにつきましては、すべて学内で、降下保管中というふうになっておりますので、系統内にはナトリウムは今も何も入っていないし、
0:31:13	なので、系統は全部止まると、そんな状態になっております。
0:31:18	一方で、左側の上にあります通り、先ほどご説明した通りですね終了前の遮へい体取出しというのは、やったと。
0:31:27	とりあえずは、今年度分は終わったと、こういうことになっております。
0:31:31	あわせて、昨年度までに取り出した紙 530 体、燃料でございますそれは全部燃料費で保管中、そういう状態になっております。
0:31:41	10 ページは廃止措置の全体概要ということで第一段階を張って現在第二段階をやっているということ。
0:31:47	11 ページは遮へい体等取り出し作業の概要というのを示させていただいております。
0:31:53	全部で 599 体を、これを大体 3 回に分けてやろうと、1 回当たり約 1 枚ぐらいにしましょうということでやっております。
0:32:03	田路さんには、この作業を一応 3 回に分けてありますので、やった都度、次のステップにですね、反映するもの反映して改善していくというのは継続してやっていくということになります。
0:32:15	あわせて、ナトリウムのいうリスク低減、リスク低減というのを兼ねてですね、電源体取出しのときは原子炉容器、名取梅木は、通常駅ということになっておりましたけれども、
0:32:28	今回の遮へい体取出しのときには、それより 3 メートル低い状態にして、そうすることで、系統のナトリウムが全部抜けますので、そのようなプラント状態で遮へい体の取出し作業をやっているというところでございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:40	で、12 ページの方にですねナトリウムを提起するときの、
0:32:45	原子炉容器からの取り出しにどんな影響が出てどんな対策するかというのをまとめさせていただいております。一番は、浮力の低下と熱収縮による機器費制御の影響ということです。
0:32:58	簡単なポンチ絵でございますけれども、下に通常駅、右下に定期というのがありまして、3メートルぐらいナトリウムの液が下がりますので、その分、機器の浮力が、
0:33:09	下がってしまって、この重量でですね結構制御してるところがありますのでこの重量制限効いてきます。
0:33:16	あわせて、熱収縮というのも数mmですけど出てきます。この部分もですね、一応測定するためには、そういう回転角度とか、おろした長さとかそういうので、
0:33:29	制御するところになります。これも操作の制御に効いてきます。なので対策といたしましては定期状態で実際以前に動作試験というのをやりまして、その結果をもとに、
0:33:40	制御の各パラメータの最適化をしたと、こういうことをやっております。
0:33:45	あわせてですね状態といたしまして、②番ナトリウムの循環運転ができないというのを、課題としてあります。これはどういうことかと言いますと、90 平均の方からだと、オーバーフローラインというのが、点線で書いてあると思います。
0:33:59	からオーバーフローすることによって、オーバーフロータンクの中にあるナトリウムを循環系を使って純化をして、資料記載の汲上をすると、これがですね名取の循環運転ということになりますけれども、3メートル下げることによって、このオーバーフローラインが使えなくなります。
0:34:15	なので純化系を停止するしかないということになっておりまして、ナトリウム循環運転ができない状態が続いております。
0:34:22	この部分につきましては、万が一ですね、何かナトリウム純度がやっぱり有意に低下をして、そのせいで、この遮へい体取出し作業の方に影響を及ぼすようなことがあれば、リカバリープランということで、もう1回純化できるような準備をする。
0:34:41	そのようなことをやりつつですね、名取の重要度の低下によって、機器の動作トルクの上昇とか、アルゴンガス純度の低下とか出てくるということでもありますので、この動作ということですね、常に監視をするというのをやっているということでございます。
0:34:56	で、13 ページの方がですね、実際に今回、遮へい体等取扱がありましたのでその時の状態がどうだったかと、こういうのを記載しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:07	左下がですね、グリッパーの詰めトルクのモニタリング結果というふうになっておりますけれども、右下に燃料交換装置があります。この爪がですね、抱いたり閉めたりすることで、燃料を搬出することを考えております。
0:35:20	恒川平蔵さん承知のところ、統計がありますので、この登録をですね、ずっと常時監視をすると、高くても低くて警報がなくなりますけれども、その警報値には、
0:35:32	当たるようなことはなくてですね、ここに記載の通り、
0:35:36	ほとんど変わらずに影響なく増えてきたかなというふうに考えております。実績としてはこうだったということになりますので、
0:35:43	植田の方にまとめさせていただいておりますけれども、アルゴンガス重度の変化もございませんでしたし、機器の動作トルクの変化もなかったということで、ナトリウムの純度というところにつきましては、高純度で維持されていることというのは確認できたかなというふうに思っております。
0:35:58	なので、今の管理状態をですね継続していくことで、最後までやれるんじゃないかというふうに今のところ見通しを持ってるということでございます。
0:36:07	あと引き続きですね、これからは、燃料域に移送する作業のための準備をしているということになります。
0:36:14	あとは未ジョウ系統の解体撤去の範囲につきましては、次の 14 ページに記載しております。赤井D。網掛けをしたところになります。
0:36:22	この部分を選んだ理由は先ほどご説明した通りですね、非放射性の名取付近の解体撤去物の分解作業のためのエリアだということとあわせて、
0:36:33	4 階以上のところについてはですね、まだ制度維持施設が残っております。特に庄内の高圧電気設備、このあたりが残っておりますので、この部分はちょっとまだ今は触れないなというふうに考えておりますので、もう少しプラント状態が進んで、
0:36:46	今ふげんの方で予備電源の話をおもわれますけど、ああいう準備をですねもう次の方で整えられれば、この辺りにさわるんじゃないかなというふうに思っております、この分はまだちょっと検討中ということになっております。
0:36:58	あとは、系統図で示しますと 15 ページがですね、解体撤去範囲ということになります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:05	給水加熱器周りからタービン間はこの赤い点線で囲ってるところというふうになりますけれども、そこではない。蒸発器とか加熱機とか、この上をですね解体撤去しないのは、これは、
0:37:18	この中にですね、チューブの中が、維持系のナトリウムが流れるということになりますので、当間廣瀬と名取でありますし、すでにドレーンはされているところでありますけれども、ここのバウンダリを一応形成していると。
0:37:33	ということになりますので、まだ今でもこの部分は、そういうバウンダリ機能という意味では性能維持をしておりますので、この部分にはさわらないというふうにしてそれ以外の部分を解体撤去する範囲というふうにして決めております。
0:37:45	合わせて 16 ページになりますけれども、
0:37:48	先ほど運営の方で、燃料池の冷却停止の話を紹介させていただいておりましたけれども、もんじゅもそれやりたいというふうを考えておまして、
0:37:58	現在ですね、この使用済み燃料の冷却停止に向けた評価の一環で、
0:38:02	使用済み燃料の冷却停止可能かどうかを判断するための、0 が策定をしております。外気温が高い 6 月から 9 月に、燃料域の強制冷却を停止をして、水温水位を実測するというをやっております、
0:38:19	そのためにですね温度分布把握できるように、仮設の温度計というのが右側にあるようにですね、水位に合わせて 3 ヶ所ぐらいに設置をさせていただいております。
0:38:29	6 月の 14 日からですね燃料域の強制冷却を停止して、現在水温水位を実測中ということでございまして、9 月の下旬ぐらいまで水温測定をすると、こういうことに考えております。
0:38:42	今のところは、想定を超えるような、変な事象が出ていないということになりますので、このままですね、しっかり測定をして、その結果を評価をして、
0:38:52	停止できるかどうかというところに反映して参りたいというふうを考えております。
0:38:57	あわせて、大文字の方は磯市の中で一番特徴的なのはこの 17 ページの第二段階のロードマップというものでございます。
0:39:05	こちらはですね、今、ご理解いただいております廃措置計画の方にも添付させていただいております図でございますけれども、
0:39:13	まだかなりですね大ざっぱなものだというふうに考えております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:17	このロードマップをですね、しっかり詳細化をして、第二段階、後半は第3段階以降の工事をですね、しっかり安全にできるようにどう準備していくのかというところについて検討しなきゃいけないというふうに思っております。詳細検討は現在も継続中と。
0:39:35	ということでございまして、この部分についてもまとまったらですね、全員ご説明をさせていただきたいというふうに思っておりますのでございませ
0:39:42	すいません。ちょっと資料一気にご説明して、申し訳ございませんでした。資料のご説明は以上でございます。
0:39:48	ご質問あれば、よろしくお願ひいたします。
0:39:54	本町の13ページなんですけど。
0:39:59	動作取り組み、
0:40:03	とですねその1人の順序関係性、どういった関係があり、
0:40:10	とですね。
0:40:11	アトリウムの純度が悪くなると、本当に悪くなるとですね、不純物が析出をします。
0:40:18	その不純物が、例えば、その動作をするところを摺動部んとところに噛み込んだりとか、ああしてくると、動作トルクが上がって動かなくなると。
0:40:28	朝早く動かなくなるということになりますので、ある程度純度を管理しておかないといけないということになります。ただ、その不純物が析出する濃度というのは、かなり高いので、そこまで行く前にですね、しっかり管理をしていくということが必要で、
0:40:44	ただこの後追いの純度そのものをですね直接測定することが、今ちょっと難しい状態になっておりますので、それを間接的に、アルゴンガスの純度を測定をすることで、
0:40:56	入ってくる多分純度ばっかするのはですね。
0:40:59	装置を動かすときに、どうしても原子炉容器の外に出てきますので、外から空気が購入する可能性がある。なので、まず最初に、
0:41:11	順番がアルゴンガスの純度が悪化しますので、このアルゴンガス純度を監視しておけば、ナトリウム純度の方に影響が出る可能性があるかどうかというのは見れるということになります。
0:41:21	なのでこのアルゴンガス準とか監視をして、ナトリウムの純度が正常な状態かというのを、間接的に見ながら、あわせて、
0:41:31	目的は、この機器の動作が円滑に進むかどうかということになりますので、この機器の動作登録も監視しておけば、目的も直接監視できるということになりますんで。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:42	結果的には 202 体部分処理しましたがけれども、いずれも大きな、有意な変化はなかったかなというふうに考えているということでございます。
0:41:51	規制庁大嶋です。わかりました。どちらかというと、ちゃんサロンバスの方から給料悪くなっていて、ハーカ一流れとしてはそうなりますね。現在のプラント状態ではということになりますけれども。
0:42:04	実際に運転するときのことを考えていけば、それはその時にですね、例えば、ああし新しい新燃料体とかを挿入していくとすると、炉心燃料体に付着している不純物とかから出てき不純物が析出して、
0:42:20	ナトリウムの純度が直接悪化するとか、そういうルートも考えられますけれども、今はもう直接そこの中に入れるものはなくて取り出していくばかりになりますので、
0:42:30	不純物の購入ルートは直接的にアルゴンガスのところを介してと、こういうのが主なものになるというふうに思っておりますのでこの部分を監視しているということになります。
0:42:40	尾島です。わかりました。
0:43:03	とかありますか。
0:43:05	社長。
0:43:11	繰出金 44 ページ。
0:43:16	7 月 4 日に完了ということで、
0:43:21	人間系への実装っていうのは、引き続きですね、いつごろまでやるんでしたっけ。ほう高齢はいつ頃までだったかな。
0:43:35	サワザキさ大体わかるかな。本城です。はい。はい。はい。10 月の後半から倫理系の移送を始めまして、
0:43:48	今の来年の 2 月。
0:43:51	に今年度分はやろうという計画をしております。
0:44:05	表示の現在の状況。
0:44:09	論議があって、そのままではあるんですが、そうですね、はい。
0:44:20	循環ポンプのところも、アルゴンガスは封印させですね。そうなりますね。そこは病院の可能性はないんだけどっていうところなんです。そうですね。はい。そこはもう、
0:44:35	一応、まだナトリウムの残留ナトリウムがあるというふうに思ってるので、その部分を合わせて、アルゴンガスを注入してるとなります。
0:44:48	タケウチですけれども、ナトリウムのウエノを空間につきましては動かすで、その辺は、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:58	その容器がそろって周りがですね、部屋につきましては、そうです。この緑の部分はこれは窒素です。はい。すいません。木曾麻生です。すいません。アルゴンガスはいはいはいはい、ありがとうございます。
0:45:26	不具合燃料貯蔵槽ってところに、
0:45:30	2ヶ所
0:45:38	あ、規制庁クリサキです。今も出てたので、ちょっと二、三お尋ねを尋ねて確認です。
0:45:49	商品取り出し、炉心からEVSTまでですね、約2対1かな。それ、藤、とりあえずは。
0:45:59	まず終わって、何よりですよ。今後、後半にEVSTから燃料池に移すことで次の年度また、炉心から、それを3回やるってということですよ。そういうちょっと内容でしたね。
0:46:16	はい。それはあくまで確認だけですよ。
0:46:18	引き続きそこは安全に努めて実施していただければと思います。現地を見させていただきましたけど。はい。はい。
0:46:28	ナトリウムの搬出は今のところは予定通り進められてるってことです。そうですねはい。予定通り進めます。はい。あと、金等の水条件ですけど。
0:46:43	これ、現パー参事系なの。実質参事系なので。はい。5000円とかほとんどないんでしょうけど、もう全くないですよ。20年まではちょっと気になりますけど。
0:46:55	宗さん、水蒸気系はもうほとんど、管理区域という意味では一次系までしか管理区域がないので、二次系は、管理区域ではありません。ただ一次系とは、
0:47:08	中間熱交換器のチューブとところでバウンダリを形成してますので、そういう観点での管理が必要だと思いますんで、実条件につきましてはさらにナトリウムもない状態になってまして。
0:47:18	本当に多分どっかっていう等火力発電所と同じぐらいの管理の状態になってると、いうことでございます。実質なくアライ測定を知っていただいたんで、その水蒸気系に関しては、すいません。してないと思ってまして。
0:47:32	当然入ってください。はい。そこに来るのは、今までの管理上ありえないという、はい。はい。
0:47:43	それちょっと付言の方の例の、
0:47:47	技術開発部員架空の処理感想とかその辺の話ちょっとないんですけど、これ全くゼロ税ってということなんですか。そういうことではありませ

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ん。そういうことではないんですけど、先ほどご説明しましたけれどもまだ早々あのメーカー、
0:48:05	共同しておりますので、その部分はですね、軽水炉とかでもいろいろ、使われている技術があります。それをどう活用するかというところで、ふげんの、
0:48:17	この部分に利益をすると、こういう考え方で、開発の課題というポイントを2点出したということでございます。簡単に多分、遠隔で
0:48:28	切断装置を動かすみたいなそういうイメージで起こるんですけども。
0:48:34	危機みたいなイメージではないですよ。そうですね。そうか。中間課長なんか補足ありますか。
0:48:45	はいえっとですねこのふげんの溶接する部分が約直径8メートルぐらいの、
0:48:52	部分に、その解体をプールをですね養成するので、大型といいますかそこをですね、奥安野で大型というかあそこですね、溶接する必要あるので、
0:49:05	何ですかねAがそちらにありましたっけ。イメージが、マニピュレーターのような装置に、行政争訟検査装置をつけて、そこをですねレールを走らせながら今のイメージですけどレールを走らせながら、
0:49:18	溶接していく。そんな今、今の状態はそういうイメージで持ってます。
0:49:24	そこがこの規制庁クリサキです。この解体をプール設置、これを設置してってということなんですね。
0:49:35	そうですねここで今、技術開発が必要と言ってる部分に関しましては、この解体用プールをですね、原子炉本体に溶接する、その溶接箇所の
0:49:47	工法になります。なるほど。わかりました。
0:49:50	体験していくのに何で溶接が必要な融雪検査とかが必要なのかなってのちょっとそこが見えないですね。
0:49:56	解体をプールってのを設けて、これをまず溶接して、それで進めていくっていう、会計の方を進めていくってそういうお話ですね。はいそうですか。僕は。
0:50:09	理解できなかったのでもちょっとお聞きした時代なんですけど。
0:50:13	かなりですね、やっぱ放射化しておりますので、クルーの中で取り扱わないとですね、少々厳しいなので、ただこのふげんの原子炉容器構造はかなり複雑になりますので、
0:50:28	一つずつ外して、相談できる場所に持って行って、しかもその相談をして、収納容器に入れてからじゃないと外に持ち出せない。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:38	いうふうになりますのでその相談週、をする作業する場所が必要になります。その場所が、水中の中でやろうという計画になっておりますので、それを原子炉容器の上に、解体用プールとこういうのを置かせていただきたいというふうに思っています。
0:50:54	実際にはですねこの比嘉豊こちらの方にですね持ってきて、採用するというのを考えておりますけれども。
0:51:01	これをつけようと思うと、どうしてもですねこの原子炉容器と溶接をする箇所が出てくると。
0:51:08	原子炉容器の中に入ってる水をさらに上まで水位を上げていくということになりますので、やってる時に水が漏れていくようにはいけませんので、なのでこの溶接部分について、
0:51:19	しっかり管理できる溶接方法を開発すると、そんなイメージでやっています。はい。これ、イメージとして原子炉容器の上にかう、かう置くようなイメージなんですかねもうそんなイメージですね。はい。そんなイメージになります。はい。
0:51:37	それで、取り込みじゃないですけど、遮へいっていうか、それを基にしつつ、値上げを進める。そうですね。今のを、
0:51:49	主蒸気についての状態から、
0:51:51	解体をして持っていったものをさらに採用する、その部分の遮へいをするための液位を稼ぐと、そんなイメージです。
0:52:04	茂木院長ですかね。今、元契約手続き中なんですからけれども。
0:52:14	去年までは一応順調に進んだと思っておりますし、イメージ図も大体一応でき上がってきていますだから、実際の先ほどもお話ししましたがこの要素開発をしていく中でですね。
0:52:27	新たな課題が出てくるか出てこないか、によるかなと思っています。その部分についてはこれからですね、特に本件については、ふげんの廃止措置工程のクリティカルを事実上占めているような、
0:52:42	技術開発になりますので、この技術開発の工程につきましては、プロジェクトマネージャーを務める本部長のアライが、しっかり中身を見ながらですね。
0:52:53	必要な判断を都度都度やっていながら前に進めていくということを考えておまして、イメージはですね何かこの第一段階の中でどんな課題の抽出をして、
0:53:04	次の方向性、開発の方向性をどうするかというのを、選ばないといけないということになります。そうしないと、装置の製作にかかれないうことになりますので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:15	まずはその部分です。一旦ホールドポイントが事実上あると、そういうふうには考えています。
0:53:22	絶対ちょっと人間的なところも体制的なところもあるのかもしれないんですけど。
0:53:30	今書いてあっちこっちで表現の方やられてますよね。現地を見てきて、進められてるのは確認させていただいたんですけど。
0:53:41	1 括り行きますか。これ、
0:53:44	多分解体進めながら開発も進めてっていうことになるんじゃないかと思うんですけど。はい。そのところを上手くこうなんて言うのかなもうちょっと人を寄せてみたいなお話も、ご説明いただいたんですけど、あの人がうまくやらないと。
0:54:01	ないみたいな、大城通りがあるんじゃないかと思う推察するんですけど、同じ懸念を当然持っておりまして、そのためにこの資料一番でもんじゅからちょっぴり出したという話しましたけれども、これも、
0:54:14	1 人の問題は、あとはですね、コストの問題もあると思います。こちらでもありますね、不ゲーム団体では、処分処理しきれない、大きな課題になる可能性があると思っておりまして。
0:54:26	なので、その部分についてアライが直接、流れ対応見ながらやっていると、いうふうになっています。なので、場合によってはですねこの部分、かなりコストとか、要員が必要で、
0:54:40	それを選択するという話になった時にはですね。
0:54:44	非人的資源の話とか、予算の確保の話とかとセットで、おそらくアライが判断すると、そういうことになるかなと思います。
0:54:55	あとは今やっているとところもう少し内容を見てですね。
0:55:00	その判断するタイミングがいつごろになるのかとか、そういうところをですね、検討していかなきゃいけないなというふうに思っております。はい。そうですねそれによって規制庁栗崎ですけど、計画も、もしかしたら、
0:55:15	ってところが、そうですね終わりになるのかなあと思っているところは、2040 絶対守りたいというふうに思っておりますので、っていうか、2040 絶対守りたいし、もう一度 47 守りたいと。
0:55:28	敦賀地区としてはもうだからもう本当に 1047 が最後だと、これを絶対死守したいというふうに思っておりますので、安易に計画の変更はないというふうに思っております。この 7 年間の中でですねしっかり。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:41	開発をしていかなきゃいけないなどは思っておりますけれども、当然、まだやっぱ開発水物になりますので、どうしても新しい大きな課題に気が付いたら、
0:55:53	それはもうその気がついたタイミングでですね、必要な検討をして、その方向性、変更が必要だという話になればですね、速やかに操作していただくと、そんな形になるんじゃないかなと思います。今のところ、
0:56:05	それがないように全力で頑張ってるということでございます。あともう1点だけ先ほどの技術開発この辺の話は、
0:56:15	手続き的なことはどんなふうにお考えですか。
0:56:20	都築。
0:56:25	基本的には、これは原子炉容器の解体の準備、というものになるかなあというふうに思っておりますので、
0:56:34	この工事を行うというところについては、ご説明をした上で、やっていくことになるんじゃないかとは思っています。はい。あとは、さらに、例えば、イメージされてるのが、この工事の方法。
0:56:49	はい措置計画に明記するべきかどうかという、こういうところかと思えますけどそこは、工事の方法のイメージがある程度固まったタイミングで、また改めてどうぞご相談させていただきたいかなというふうに思っています。
0:57:01	ちょっとだから、Aはもう言わないと思えますけど、まだまだちょっと本当にこれでやれるかどうかというところが決まってないので、そこをもう少し明確にして、ご説明させていただいて、それが、
0:57:15	これまでも説明してきた、廃止措置計画の中で示ささせていただいている工事の手順ありますけれども、そこに影響を及ぼすような変更になるかどうか、それ自体かなというふうに思っておりますので、もう少しイメージが整ってから、ご相談ということでお願いしたいと思えます。
0:57:31	これはもう大きいんですね。わかりました。はい。はい。わかりました。ありがとうございます。はい。
0:57:41	脇衛藤様です。
0:57:45	広野所長も来てしまったんですけども、規制庁の方から事項等なければ、文化賞の高坂なんかの追加でございますが、
0:58:00	はい。横井です。今日面談の機会をいただきましてありがとうございます。文実現の状況については今機構から説明させていただいた通りです。
0:58:10	もんじゅについてはですね第二段階に一応予定通り入りまして今説明あります通り、作業も順調に進んでおります。それに至ってはですね計

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	画を作る変更のところ、かなり規制庁さんにはお手数をおかけしてしまっただけです。
0:58:27	今のところですね、順調に進んでおりますので、引き続きしっかりと対応していきたいというふうに思います。あとふげんについてはですね今し方も議論あります通り、
0:58:37	技術開発の要素が一つございます。これについてはですね、地元との約束もありますので、この7年間ということで次ありきではいけないんですけれども。
0:58:47	目黒死守すべくですね、しっかりと進めていきたい、確認者が進めていきたいというふうに思います。あと喫緊の課題としてはふげんの使用済み燃料の、
0:58:58	搬出計画の見直しというのがあります。これについてもですね今フラストJF国事業者と、
0:59:05	しっかりと今技術的にどの部分が問題なのか含めてですね、検討しているところですので、これについては一応年内目途に、見直しの反省計画というのを取りまとめるという方向で、
0:59:19	我々も一緒になってですね検討しておりますので、これについても引き続き状況については、適時世良清をしていきたいとします。そういったことでちょっといろいろ課題もあるんですけれども、引き続き文科省としてもですね、機構と一緒にしっかりと対応していきますので、
0:59:36	引き続きご相談、確認させていただければと思います。引き続きよろしくお願ひします。ヨコイジョウです。
0:59:43	規制庁青島です。はい、ありがとうございました。
0:59:46	全体として機構さんの方から何かございますが、これありません。わかりました。そうしましたら、時間が来てしまったのでちょっと本日の面が、これで終了させていただきたいとします。どうもありがとうございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。